

組合員各位

委告04-55-2

告示の通り、令和4年度冬季一時金要求額について、第1回委員会において決定致しましたので、会社に要求書を提出し団体交渉に入ります。

#### 要求額決定の経緯

166期上期業績は、販売計画1,079億4,000万円に対して、1,075億6,700万円で、遂行率99.7%、売上総利益63億9,100万円(5.94%)に対して、販管費66億5,900万円(6.19%)であり、営業損失2億6,800万円(-0.25%)という結果となりました。今期最終見込みが現時点で見通せない厳しい状況であることから、まず初めに半期交渉となることを説明し、要求額に関しての協議を行ないました。

委員会のなかでは、初めに166期上期業績を確認し、成果配分である一時金を、結果が伴っていない中で本来要求できる状況に無い事は共通認識とした上で、委員や現場の思いを確認しました。営業現場からは、全く終わりの見えない出荷調整品対応に多くの組合員が疲弊し、精神的にも限界を感じているとの窮状が訴えられ、工場からも、度重なる資材やエネルギー価格の値上げにより、様々なコスト削減の努力をしているが利益に繋がっていない苦しい思いが伝えられました。また、ノンストック化やコールセンター集約などが、業務とコストの改善にとって必要である事は理解しつつも、環境変化の速さに現場が困惑しているとの声も多く上がり、モチベーションを持ってこれらの課題を乗り越えていくためにも、一時金を要求する意味と重要性が高い事は、全ての委員の共通した思いでした。

組合員としては、上期の価格交渉において、売差改善の為に覚悟を持って交渉を行い0.5%の改善をした事や、職場集会の中で土曜当番の削減について協議し、多くの支部が人数や時間の削減を始めるなど、自分達で出来る利益やコスト改善のための取り組みを行ないました。ただ、夏季交渉の際に会社と合議しました、ボランティア先への訪問頻度や配

送回数<sup>の</sup>是正、返品受付期間<sup>の</sup>短縮については、組合として推し進めることが出来ませんでしたし、会社の利益の根幹となるメタル品販売の推進も組合として出来ていないなど、多くの課題が残っている事も事実として受け止め、年間での黒字化に向けて下期はあらゆる環境変化に対応し、全員で利益や業務改善に拘った活動をしていく事を委員会の中で確認しました。

これらを踏まえ、今期最終着地までモチベーションを持って業務を遂行していくための金額として、20万円の要求額が委員の総意として決定しました。以上が要求額決定の経緯となります。今回の委員会では、委員の誰もがこのままではいけないという危機感を持ち、変わらなければいけないという意識を持った委員会となりました。その危機感を全員が共有し、利益を生み出す事に徹底した166期下期にしていきたいと思います。

これより団体交渉に入りますが、全力で交渉致しますので、組合員の皆さまの更なるご支援をお願い致します。

令和4年11月30日  
中北薬品労働組合  
中央執行委員長 片野 信吾